

大泉桜学園 発表原稿
(1月23日/小中一貫教育フォーラム)

それでは大泉桜学園のこれまでの実践についてお話しします。

本校では「命の教育」を教育課程編成の根本理念とし、次の五つを重点に定め、教育を進めています。

(読みません)

第1「異年齢集団の交流と学び合いを生かした教育活動の推進」

第2「指導法の工夫改善と児童生徒の能力の伸長」

第3「人との関わりを重視した伝統・文化体験活動」

第4「勤労観・職業観の育成と自己の生き方」

第5「望ましい連帯感を育む児童・生徒の健全育成」

重点の第1として、第1期の最高学年となった4年生は様々な役割を担っています。たてわり遊びなどの集会や東校舎の放送委員会などでも4年生が活躍しています。

11月の開校記念集会も4年生を中心に行っています。4年生の成長は大きな成果です。

4年生に力をつけることで、第1期に進んでから、小学校と中学校の段差を、余裕をもって乗り越えていけます。したがって本校では障害になるものを取り除いてあげるといってはしません。むしろ、早期にいろいろなことにチャレンジさせていきます。

7年生は第1期の最高学年として活躍しています。年度当初に行う飯盒炊爨もその一つです。飯盒炊爨は東校舎から西校舎の仲間になった5年生を6・7年生が温かく迎えようとするねらいもあります。第1期を通して、職業調べ発表会、大泉桜学園避難拠点訓練での防災リーダーなどを通して7年生の可能性を伸ばしています。

第1期の8年生と9年生は大泉桜学園全体のリーダーです。一斉下校訓練では中心となって地区班の下級生の下校を支援しています。

児童生徒会活動には5年生以上が参加しています。5年生から役員選挙に立候補し、立会演説や投票などに参加しています。

部活動は5年生から入部が可能です。家庭でゲーム遊びをすることより、部活動に取り組むことで子供たちは大きな成長が期待できます

また大泉桜学園では児童生徒の発達段階に合わせて5種類の朝会を実施しています。第1期、第2期に分かれて行う「期別朝礼」は本校独自の取り組みです。

重点の二つ目は、「指導法の工夫・改善、児童・生徒の能力の伸長」です。

第1期の5・6年生は、50分授業と10分休憩を組み合わせたことにより、子供たちはゆ

とりを持って学習に取り組めます。また5・6年生は一部教科担任制を実施しています。

重点の外国語活動では、東京都オリンピック教育推進校の予算を利用して、ALTによる授業を年間11日間増やしました。1・2年生は余剰時間を利用して年間5時間、3・4年生は年間20時間の英語活動のうち、10時間をティームティーチングで行ってきました。

また本校には、普通教室を半分に区切った個別学習教室が5部屋あります。

この部屋は算数・数学、外国語等少人数編成の授業に活用されています。また、学力向上支援講師・学習ボランティアによる放課後学力補充教室にも活用しています。放課後学力補充教室は、4年生以上は週2回、7年生以上は毎週水曜日に実施しています。

重点の第3として「人との関わりを重視した体験活動」があります。

例えば、5年生は学校水田「大泉桜の里」で、本物の稲作体験をします。農業指導の方々との交流も大切な体験です。

大泉特別支援学校との交流、ふれあい給食も大事な体験活動の一つです。

それらの交流を第1期から第3期にかけて、生け花、茶道、墨絵など室町文化体験学習へと発展させます。その集大成として9年生が京都・奈良方面の修学旅行に出かけます。

重点の第4として「勤労観・職業観の育成と自己の生き方」があります。

例えば、8年生の職場体験は、それぞれの事業所の方々が額に汗して働く姿を目の当たりにして、その姿から働く意義を学びます。なお、6年生が職場体験の事前準備として、8年生の様子を見学し、取材する学習も同時に行っています。

重点の第5として「望ましい連帯感を育む児童・生徒の健全育成」があります。大泉桜学園では標準服を定めています。それが、学校にふさわしい礼儀や規律を理解させ、環境を整え、豊かな生活を作り出します。

卒業式などの儀式的行事では、6年生以下も標準服を着用するように協力をお願いしています。

昨年度からは児童生徒にベーシックな学力を身につけさせるため、教科ごとに基礎的・基本的な内容を指導するための系統的なカリキュラムづくりを行う研究を進めています。

小学校と中学校の各教科の指導内容を9年間のまとめりとしてとらえ、内容の系統性や児童生徒の発達段階に応じた各段階における重点やつまずきやすいポイントを明確にして、9年間を見通すことのできる年間指導計画を作成することを主眼にしています。

大事なことは、各教科で、それぞれの学年で学ぶべきことに対するつまずきをそのままにしないということです。

そして、作成した指導計画に基づき各教科が系統的・継続的な指導を充実させることを目的

にしています。ここでいう基礎・基本とは、次の通りです。

(読みません)

- 基礎的な内容 - 学習を支える基になるもの 児童生徒の経験や既習事項
- 基本的な内容 - 各教科の学習内容の中心的価値

カリキュラム作成の具体的な手順は次の通りです。

(読みません)

- 第1に、学年ごとの教科指導における基礎的・基本的な内容の重点を決める。
- 第2に、決定した内容の系統性や連続性を意識し、指導内容を整理する。
- 第3に、それぞれの内容について、系統性や連続性を意識した教科指導方針を決める。
- 第4に、教科指導方針に則ったカリキュラム実践の内容について検討する。

本校では、このようにして作成したカリキュラムを「さくらベーシック」と呼んでいます。

作成した「さくらベーシック」は、教科ごとの研究授業で改善を重ね、さらによりよいものしていきます。そのため、校内研究は教科領域を8つに分け、教科分科会単位で行っています。

8分科会は次の通りです。

(読みません)

国語	社会	算数・数学	英語・外国語活動・英語活動
音楽	理科	体育・保健	図工・技術・家庭科・情報

今年度も、「さくらベーシック」改善のための検証授業を年3回、のべ24回行い、それぞれの授業で、研究協議会を行い、講師の先生からの助言をいただきながら改善を進めています。

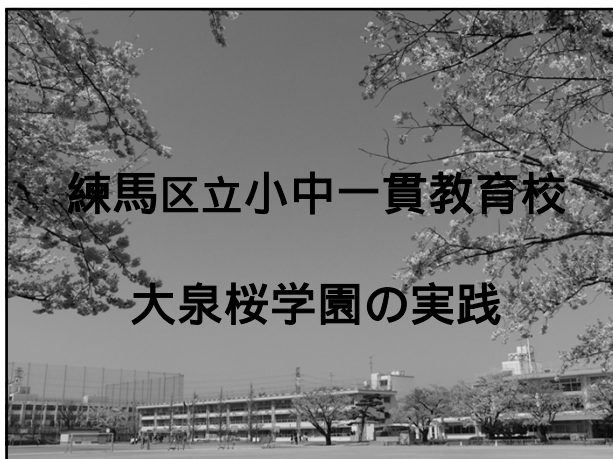
本校の学校の規模により、分科会の人数は多くても6人、少ない分科会では3人となりますが、その分、ほぼ全員が検証授業を行うことになり、協議会での話し合いが実践を伴う濃く、深い内容になっています。

私は小学校籍ですが、理科の授業の組み立てに悩んだ時に、職員室で後ろを振り返れば、すぐに中学校籍の理科の先生に相談をできるというのが、本校の一番良いところかもしれません。

また研究推進委員会を中心に、生活指導部とも連携し、基本的な学習規律の策定にも取り組んでいます。

本校では、それを「さくらスタンダード」と呼び、実際の指導の中で、確認し、児童生徒の実態により合致したものに改善をしています。

現在、改善を進めている「さくらベーシック」並びに「さくらスタンダード」を内容の中心にした研究発表会を来年度の秋に予定しております。どうぞ、皆様、お誘い合わせの上、お越しくください。



命の教育 **教育課程編成の根本理念**

教育の重点

- 1 異年齢集団の交流と学び合い
- 2 指導法の工夫・改善、児童生徒の能力の伸張
- 3 「人との関わりを重視した伝統・文化体験活動」
- 4 勤労観・職業観の育成と自己の生き方
- 5 望ましい連帯感を育む児童・生徒の健全育成

1 異年齢集団の交流と学び合い

開校記念集会(11月)

たてわり遠足(5月)

1 異年齢集団の交流と学び合い

虹をわたろう(3月)

1 異年齢集団の交流と学び合い

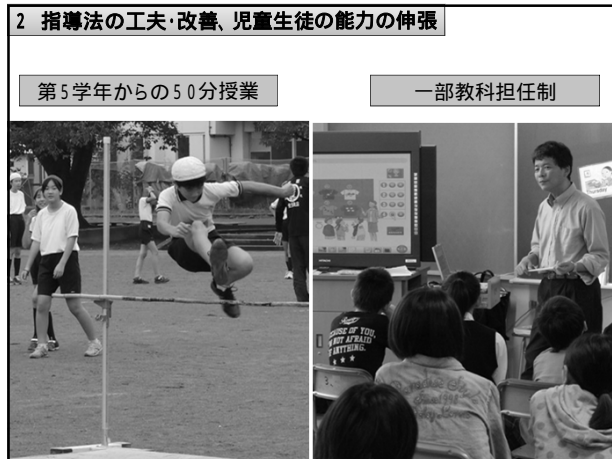
防災リーダー(7年生)

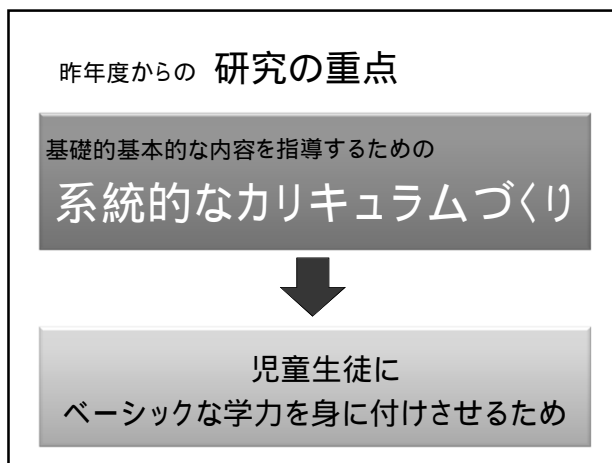
5～7年合同の飯盒炊さん

1 異年齢集団の交流と学び合い

交流給食

一斉下校訓練





カリキュラム作成のポイント

- ・指導内容を9年間のまとまりとする
- ・発達段階に応じた重点を決める
- ・つまづきやすいポイントを明確にする



学年でのつまづきをそのままにしない

本校が考える 基礎・基本の定義

基礎 → 児童生徒の経験・既習事項

基本 → 学習内容の中心的な価値

カリキュラム作成の手順

基礎的・基本的な内容の重点を決める
 系統性や連続性を意識して整理する
 整理した内容の教科指導方針を決める
 カリキュラム実践内容を検討する



さくらベーシック

教科別授業研究



小中合同の研究協議会



研究組織

教科分科会	小学部	中学部	合計
国語	2	1	3
社会	3	1	4
算数・数学	1	4	5
理科	2	2	4
英語科・外国語活動・英語活動	2	3	5
音楽	2	1	3
図工・美術・技術・家庭科・情報	2	3	5
体育・保健体育(養護)	3	3	6

教科別授業研究



学習規律の策定

実際の指導の中で確認し、
児童生徒の実態に合致したものに改善



さくらスタンダード

研究発表のお知らせ

平成27年度
秋 予定

